



元気っ子

No.255 ながさわ保育園

園長 市川温予

地上の楽園と呼ばれる黄金の季節がやってきました。正面玄関のかつらの木や園庭の木々も少しずつ紅葉をはじめています。赤色系の紅葉は、シャラ、ナンキンハゼ、黄色系の紅葉は、プラタナス、とちの木、くぬぎなどです。子ども達は、少し色づいた落ち葉をままごとのごちそうに見立てたり、しいの実、どんぐり、くりを拾ってケーキの飾りにしたりと自然と関わって遊んでいます。

また、りす組（1歳児）の子ども達はお散歩に出かける時は、一人ひとりの袋を持ち、自分で拾ったどんぐりやしいの実などを袋に入れて帰ってきます。そして、「見てー。どんぐり、あったー。」「ちっちゃいのとおっきいの。」と嬉しそうに見せてくれます。何とも可愛らしい姿で、子ども達にとっては大事な宝物です。こうしていろんな自然物と関わり、大きさを比べたり、色を比べたりしていろんなことを実体験として自分の中に取り込んでいきます。自然界には学びがいっぱいですね。

さて、10月13日(土)には、「みんなにここ運動会」としてたくさんのおじいちゃん、おばあちゃんに来て頂きました。一週間延期にはなりましたが、温かい雰囲気の中、おじいちゃんおばあちゃんそして子ども達の笑顔が園庭いっぱいに広がり、とても幸せな気持ちになりました。また、子ども達一人ひとりの成長を感じる場面がたくさんあり、嬉しく思いました。ご参加頂きありがとうございました。



先日、ひよこ組（0歳児）が園庭で遊んでいるところを見てみると、しっかり靴をはいて、一人ひとりがその子なりの力で歩いていました。まだまだ足取りがしっかりしていない子もいますが、数か月前までは歩けなかった子が嬉しそうに広い園庭を歩いている姿や滑り台をしているところを見ると子どもの成長は本当にすごいなと改めて感じました。歩き出すという発達も、歩く手順を教えることではなく、歩きたくなるような心情を引き出し、歩きたくなるような意欲を持たせ、十分に歩くことのできる環境を用意することが大切です。そしてその環境の中で自己を発揮するために先生達が見守ってくれている（愛着）からこそその成長だと思います。園庭でいろんな年齢の子の姿を見たり、声をかけてもらったりと刺激がいっぱいです。子ども集団の中でこそ経験できる学びや人間関係はこれから生きていく上ではとても大切なことだと思います。子どもは遊ぶ中で達成感や挫折感、そして自分の思い通りにならないこと、みんなと協力すること、ルールを守ることの大切さ、危険なことなどを自然に身につけていきます。子ども達の成長には、楽しいと感じることのできる時間、そして周りの友だちや先生達と共有し、共感することが大切だと思います。



これからの季節、戸外に出て自然の中で体をいっぱい動かして遊んでほしい、子ども時代を子どもらしく元気に時間を忘れて夢中になって遊んでほしい、またそれが子どもの健全な成長発達にとっては不可欠なことだと私はいつも思っています。